

# 週報みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

## 「水産多面的事業」に係る関係者会議 —2/18(火) 松阪市—



2月18日(火)、松阪市のフレックスホテルにおいて、水産多面的機能発揮対策事業令和元年度地域・活動組織等関係者会議が開催された。

同事業は、漁業者等が行う、藻場・干潟・内水面の保全や、漂流漂着物の除去、海難救助訓練など、水産業・漁村のもつ多面的機能の発揮に資する活動を支援するもので、本県では、海面26組織、内水面5組織、併せて31組織が事業へ参画している。

当日は、活動組織担当者、県・市町担当者ら約60名が出席。

事務局から事業推進上の事務手続きや会計検査に関する説明がなされた後、県内組織間の情報共有を目的に、各活動組織から今年度の取組み状況についての報告が行われた。

干潟の保全を実施する組織からは、台風や大雨の際の流入ゴミ対策に苦慮し

ているとの報告や、海況の変化などによる成果の伸び悩みを挙げる声が目立ったが、今年度から活動を開始した組織からは、底質の改善や二枚貝の増加など、一定の成果があったことが報告された。

藻場の保全では、順調に藻場面積が拡大している組織がある一方で、昨年引き続き、黒潮大蛇行による海水温上昇の影響も多数報告され、これまでの活動に加え、魚類による食害や浮泥への対策も検討していく必要があるとの意見が挙げられた。

その後の質疑応答では、他組織への質問や意見交換も活発に行われた。

## 第45回全海水シンポジウム —2/18(火) 長崎県—

2月18日(火)、長崎県長崎市に於いて、第45回全国海水養殖シンポジウムが、「令和新時代～魅力ある魚類養殖業の幕開け～」をテーマで開催され、全国から魚類養殖業者とその関係者435名(三重県からは10名)が参加した。

開会にあたり、(社)全国海水養魚協会の長元信男会長の挨拶の後、株式会社ジャパネットたかた創業者の高田明氏による「夢持ち続け日々精進」と題した講演があった。その後、パネルディスカッション、養殖魚需給検討会と代表者会議の報告もあり、生産者が安心して養殖

に取り組めるよう、会場から意見や要望が出され閉会となった。なお、46回目となる次年度のシンポジウムは、三重県で開催されることとなっている。



**青さのり奉納**  
—2/20(木) 伊勢神宮内宮—

県内のアオサノリ生産者でつくる青さのり事業推進委員会と漁連は2月20日(木)、伊勢神宮内宮に収穫したばかりの県産のアオサノリ3kgを奉納し、豊漁を祈った。

海の恵みに感謝するため毎年行っており、今年は関係者17人が参拝した。そろいの法被でザルに入れたアオサノリを掲げ、一列で宇治橋を渡り、神楽殿に奉納した。



**第29回熊野灘の漁業を考える**  
「黒潮大蛇行の三重県漁業への影響」  
2/15(土) 松阪のり流通センター

2月15日(土)、松阪のり流通センターにおいて、第29回熊野灘の漁業を考える「2017年に始まった黒潮大蛇行の三重県漁業への影響」が開催された。主催は水産海洋地域研究集会。当日は、様々な漁業種類からの視点で三重県水産研究所より話題提供があり、多くの出席者らで活発な意見交換が行われた。



話題提供は以下の通り

1. 2017年に始まった黒潮大蛇行と沿岸海況  
三重県水産研究所 久野 正博 氏
2. カツオ漁業（春夏季における漁場形成の変化）  
三重県水産研究所 津本 欣吾 氏
3. まき網漁業（浮魚類の来遊状況の変化）  
三重県水産研究所 岡田 誠 氏
4. 定置網漁業（漁獲構成種の変化と急潮）  
三重県水産研究所 笹木 大地 氏
5. 魚類養殖業（魚類の養殖管理に及ぼす影響）  
三重県水産研究所 松田 浩一 氏
6. 真珠養殖業（2019年夏季に発生したアコヤガイ大量へい死との関係）  
三重県水産研究所 栗山 功 氏
7. 藻類養殖業（黒ノリ、青ノリ養殖への影響）  
三重県水産研究所 岩出 将英 氏

**【主な予定】**

○3月3日(火)～3月4日(水)  
・全国青年・女性漁業者交流大会(東京)  
は中止となりました。

本文の無断転載・転用等は固くお断りします。